

雌阿寒岳

1 概況

火山活動は引き続きやや活発な状態が続いています。

地震活動はやや活発な状態が続いており、一時的な地震の増減を繰り返しています。ポンマチネシリ 96-1 火口では火口温度が 400 以上と高温の状態が続いています。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は概ね 100～200m と、通常時の状態で推移し、特に異常は認められません。噴煙活動は 2000 年以降やや低下した状態が続いています。

3 地震活動の状況

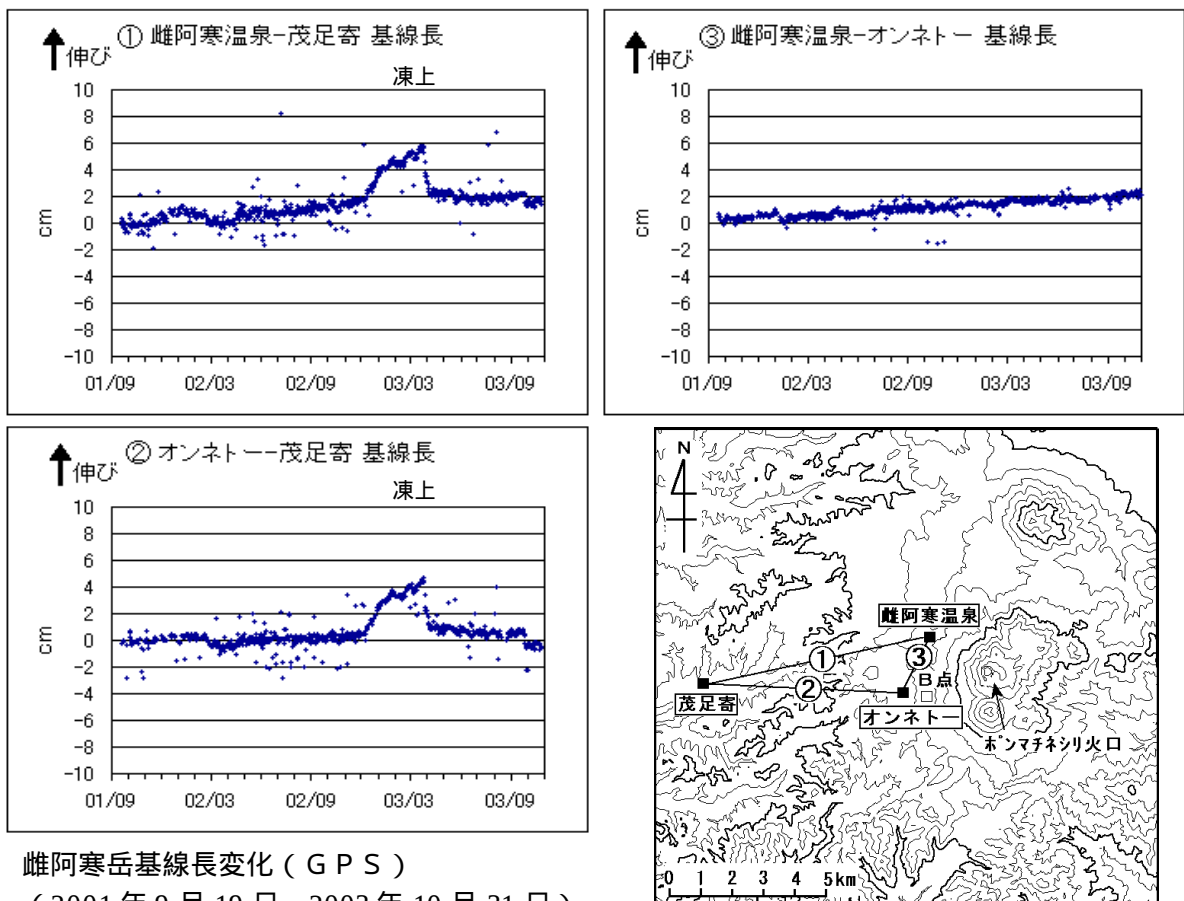
地震回数は 1 日あたり概ね 10～40 回程度で推移し、引き続きやや多い状態が続いています。いずれの地震も規模の小さな高周波地震で、震源はポンマチネシリ火口浅部と推定されます。火山性微動は観測されませんでした。地震活動は 2000 年以降、消長は見られますが、やや活発な状態が続いています。

月別地震・微動回数（B 点）

2002～2003 年	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
地震回数	20	39	204	83	223	375	163	155	113	195	156	352
微動回数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

地殻変動は長期的に見てやや伸びの傾向が見られますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



5 調査観測の結果

9 月 27 日～10 月 3 日に実施した調査観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口の火口温度が 400 以上と高温の状態が続いており、熱活動はその他の火口を含め前回（2003 年 7 月）と比べて特に大きな変化は見られません。

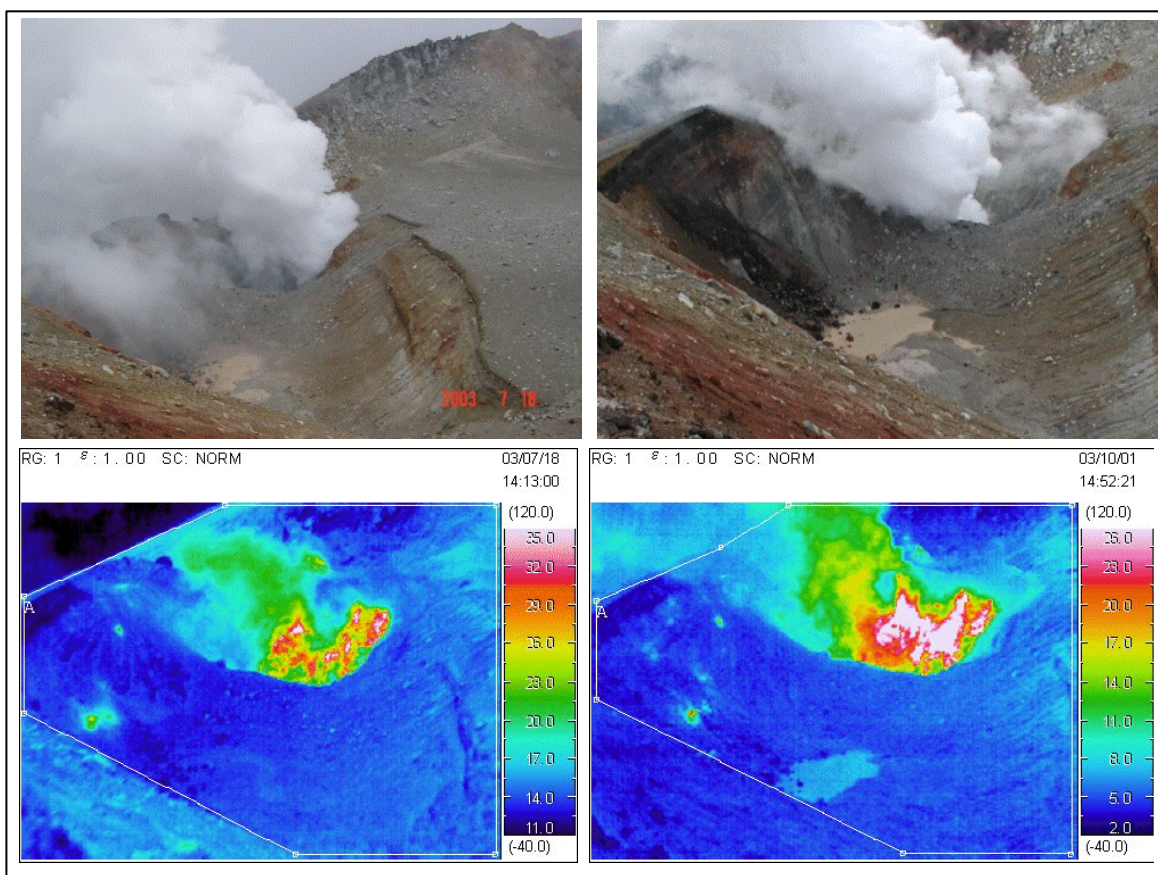
【ポンマチネシリ火口】

・ 96-1 火口

2000 年以降噴気活動が低下しており、今回の調査でも噴気活動の弱い状態が続いていました。噴気の火山ガス濃度は目や鼻を強く刺激する程ではなく、噴気音も確認できませんでした。赤外放射温度計*により、北側火口縁から測定した火口底の最高温度は約 400 で前回と変化はなく高温の状態が続いています。赤外熱映像装置*によると変色域に対応した熱異常が見られますが、新たな熱異常域の出現も見られず大きな変化はないと推定されます。



96-1 火口底の様子



赤外熱映像装置による 96-1 火口および第 1 火口内部の表面温度分布

左：2003 年 7 月 18 日 右：2003 年 10 月 1 日

- ・ 赤沼西方噴気孔
噴気量は少ない状態ですが、明瞭な噴気音を伴い勢いよく噴出しています。噴気孔周辺の変色域、地熱域の広がりに変化はありませんでした。
- ・ その他の火口
第3火口、第4火口などでは弱い噴気活動や変色域が広がっていますが、前回から大きな変化はありません。

【中マチネシリ火口】

- ・ 噴気の勢いは強く、噴気音がポンマチネシリ山頂付近の火口縁でも確認されました。噴気にはやや強い刺激臭が認められます。また、南西側火口縁からは熱泥水が噴出している噴気孔や周囲に鮮黄色の硫黄が析出した噴気孔が複数認められるなど、前回の状況から特に変化は見られません。

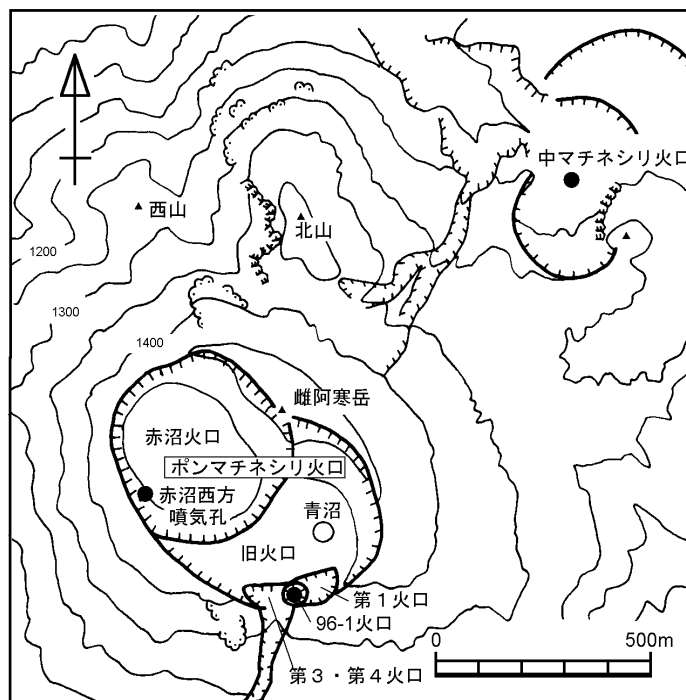
- * 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。



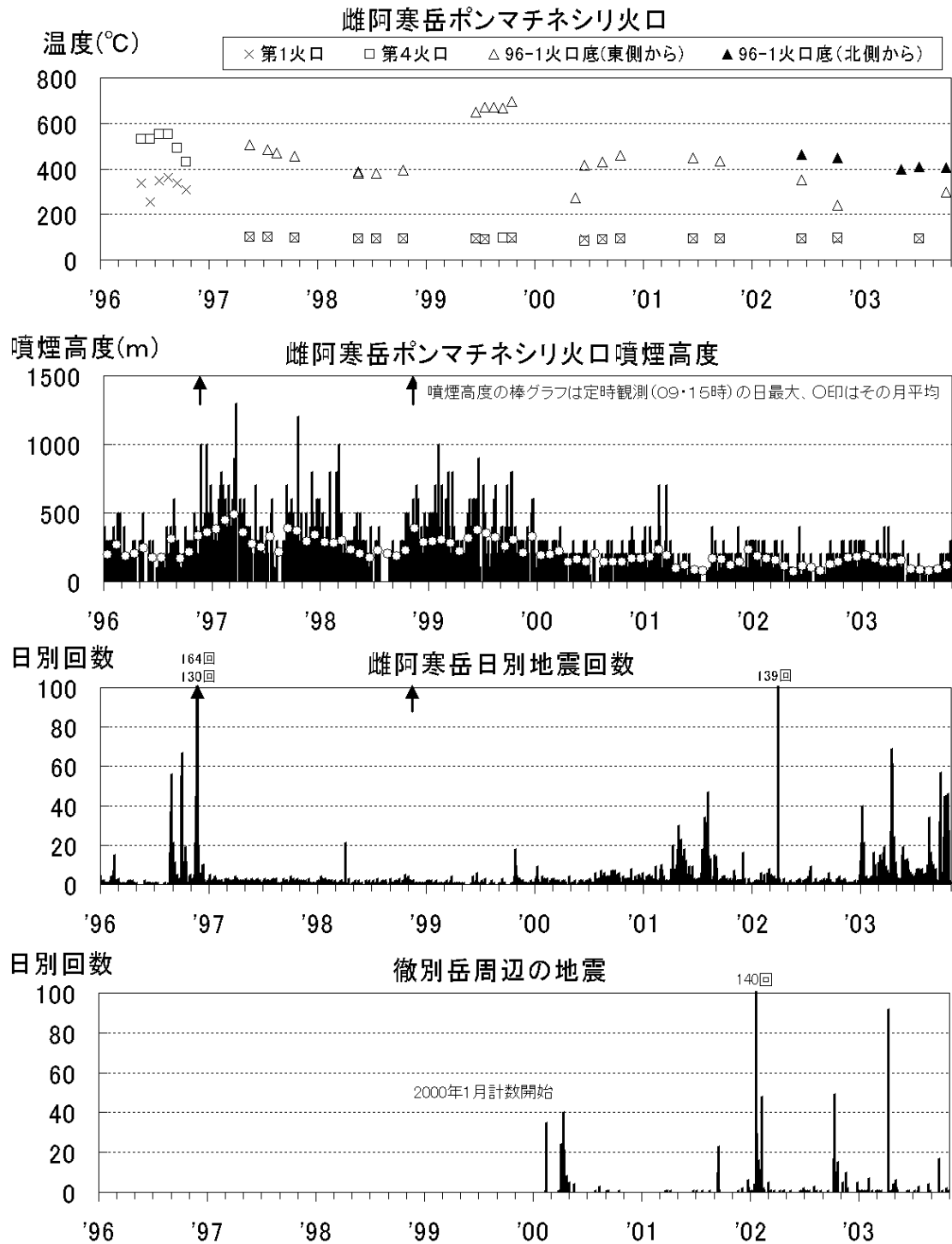
ポンマチネシリ山頂から見た赤沼火口



南側から見たナカマチネシリ火口



雌阿寒岳火口周辺図



雌阿寒岳火山活動経過図（日別、1996年1月1日～2003年10月31日）↑印は噴火